

## リンコシンカプセル250mg

### 【この薬は？】

販売名	リンコシンカプセル250mg Lincocin Capsules 250mg
一般名	リンコマイシン塩酸塩水和物 Lincomycin Hydrochloride Hydrate
含有量 (1カプセル中)	250mg (力価)

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、リンコマイシン系抗生物質と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、感染症の原因である細菌の増殖を阻止し、炎症症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

#### <適応症>

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、感染性腸炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱

#### <適応菌種>

リンコマイシンに感性的ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、赤痢菌

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりす

ると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・過去にリンコシンカプセルに含まれる成分やクリンダマイシンに対し過敏症のあった人
  - ・エリスロマイシン（エリスロシンなど）を使用している人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
  - ・衰弱している人、過去に大腸炎などにかかったことがあった人
  - ・過去に気管支喘息、著明なアレルギーがあった人
  - ・食道に異常があり、食べ物の通過障害がある人
  - ・重症筋無力症の人
  - ・腎臓に障害のある人
  - ・肝臓に障害のある人または過去に肝臓に障害があった人
  - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・授乳中の人
- この薬には併用してはいけない薬 [エリスロマイシン（エリスロシンなど）] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

### ●使用量および回数

飲む量と回数は、あなたの症状や体重などにあわせて医師が決めます。通常、飲む量および回数は、次のとおりです。

#### [成人の場合]

1日量	1. 5～2 g（6～8カプセル）
飲む回数	1日量を3～4回に分けます

#### [小児の場合]

1日量	体重1 kgあたり20～30 mg
飲む回数	1日量を3～4回に分けます

### ●どのように飲むか？

カプセルが食道に留まって崩壊すると、食道に潰瘍を生じる可能性があるため、コップ1杯（180 mL）程度の水または牛乳で飲んでください。寝る直前には飲まないでください。

### ●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬によりまれに発熱、腹痛、白血球増多、粘液・血液便を伴う激症下痢を主な症状とする重篤な大腸炎である偽膜性大腸炎があらわれることがあります。使用している間または使用後2～3週間までに腹痛、頻回な下痢があらわれた場合には、ただちに使用を中止し、医師に連絡してください。
- ・無顆粒球症、再生不良性貧血、汎血球減少症、血小板減少性紫斑病、赤血球減少、白血球減少、顆粒球減少、好中球減少、血小板減少、好酸球増多があらわれることがありますので、血液検査などが行われることがあります。
- ・黄疸、ASTの上昇、ALTの上昇があらわれることがありますので、定期的に肝機能検査などが行われることがあります。
- ・窒素血症、乏尿、蛋白尿があらわれることがありますので、定期的に腎機能検査などが行われることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎 ぎまくせいだいちょうえんとうのけつべんをとものうじゅうとくなだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる、お腹が張る、激しい腹痛、下痢、嘔吐（おうと）、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、水のような便が出る
中毒性表皮壊死融解症 （Toxic Epidermal Necrolysis：TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（トキシックエピダーマルネクロリシス：テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 （Stevens-Johnson 症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス-ジョンソンしょうこう	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

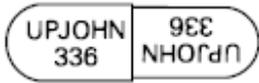
重大な副作用	主な自覚症状
ぐん)	
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのよう なものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしば しば伴う
無顆粒球症 むかりゆうきゆうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸（どうき）、あお あざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、 喉の痛み
汎血球減少症 はんけつきゆうげんしょうしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動 悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、 喉の痛み
血小板減少性紫斑病 けっしょうばんげんしょうせいしはん びょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止 まりにくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。  
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、発熱、発熱をしばしば伴う、突然の高熱、寒気、体が だるい、出血が止まりにくい、出血しやすい
頭部	めまい、意識の消失、頭痛
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	目の充血やただれ
耳	耳鳴り
口や喉	吐き気、嘔吐、唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきの出血
胸部	息切れ、動悸
腹部	腹痛、お腹が張る、激しい腹痛
手・足	手足が冷たくなる
皮膚	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のた だれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが 多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなも のを付着し、それがはがれ落ちる、あおあざができる
便	血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、下痢、便に血が混 じる（鮮紅色～暗赤色）、水のような便が出る

## 【この薬の形は？】



形状	
色	頭部：濃青色不透明 胴部：淡青色不透明
識別コード	U P J O H N 3 3 6

## 【この薬に含まれているのは？】

有効成分	リンコマイシン塩酸塩水和物 250mg（力価）
添加剤	ステアリン酸マグネシウム、タルク、乳糖水和物 （カプセル本体） 亜硫酸水素ナトリウム、酸化チタン、ラウリル硫酸ナトリウム、青色1号、赤色3号

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて、室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター（患者さん・一般の方）

電話：0120-965-485

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

（土日祝祭日および弊社休業日を除く）